

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4 年次生 横田美月

1. はじめに

この度、8 月 18 日から 27 日までの 10 日間、大阪薬科大学 2018 年度 医療英語レッスン&医療施設見学 バンクーバー・サマープログラムに参加したことについて報告いたします。

ホームステイしながら、カナダのバンクーバーにある Vancouver International College という語学学校に通い、医療英語を学びました。また、カナダの医療施設の見学をしたり、医療従事者の方々からカナダの医療はどのようなものなのか、などお話をさせていただいたりしました。

2. 語学学校 Vancouver International College

ホームステイ先から 40 分ほどの場所にある学校で、ダウンタウンの街中にあり、とても通学しやすかったです。私たち以外にも多くの日本人学生が英語を学びに来ていました。ここでのレッスンは生徒同士英語で問題を話し合ったり、ロールプレイングをしたり、習った医療英語でゲームをおこなったりするなど、楽しみながら学ぶことができるものでした。日本で学んだ知識を活かして授業を受けることができたので、4 年次生で参加できたことはとても有意義なことだったと思います。



3. 現地の医療従事者の方々によるスピーチ

現役救急隊員の方や、現役医師の方からお話していただき、カナダと日本の医療の違いを学ぶことができました。印象的なものとしては、救急隊員が行える医療行為が日本より多いことや、専門医の診察を希望する場合は最初にクリニックを受診してからでないといけないことでした。カナダと日本の医療システムの違いは驚くものばかりでした。どちらが良いのかはわかりませんが、カナダのシステムは合理的だと思うことが多かったです。

4. 施設見学

バンクーバーで最も大きな病院の調剤所を見学しました。カナダの薬剤師は処方箋を監査する事が仕事で、他のピッキングなどの作業はテクニシャンが行い、薬剤師の仕事が日本と大きく異なるということを知りました。ほかに、アルコール中毒者やドラッグ中毒者、ホームレスの更生を支援する施設の見学をしました。この施設はクリスチャンの方々からの寄付で成り立っており、彼らの慈悲深さを知ることができました。バンクーバーのチャイナタウン付近にはホームレスが多く、社会的に問題となっているようです。この施設の方は、「全てを援助するのではなく、人としての自尊心を取り戻してもらい、自分でできることは自分でやり更生をしてもらうことが大切だ」と仰っていました。毎年多くのホームレスが仕事を見つけ、住まいを持つことができています。日本にはあまり無い施設を見学することができ、良い経験ができたと思います。その他にも、ファーマシストアシスタントを育成する、日本の専門学校的な位置付けの学校にも見学に行きました。カナダで薬剤師として働くには1番の近道になるとお話していただきました。また、カナダで2番目に大きな総合病院の見学にも行きました。多くの専門医が集まっており、とても大きな病院でした。



5. ホームステイ

初めてのホームステイでしたが、家族の1人として過ごすことで、カナダの人の生活を肌で感じることができました。現地の人と英語でコミュニケーションを取るのはとても楽しかったです。日本のことを話すと楽しそうに聞いてくれました。ホストマザーの手料理が美味しかったことも良い思い出となっています。



6. 観光

バンクーバーには沢山の観光地がありましたがどこも近くにあり、10 日間でも多くの場所に訪れることができました。みんなでサイクリングをしたりマーケットに行ったりして、充実した放課後を送りました。バンクーバーは都会でありながら自然が沢山あり素晴らしい場所だと感じました。



7. 最後に

このサマープログラムは、カナダと日本の医療の違い、そしてカナダの文化を知ることができた、とても素晴らしいものでした。英語でのコミュニケーションは難しいと感じることが多く、もっと勉強しなければならなかったと感化されました。このプログラムに参加したことは、私の人生の中でも貴重な経験になったと思います。